

こんな職種があります!!

研究開発

設計開発

活躍している先輩の出身学部

【技術部】機械系学科

こんな仕事をしています。

- ものまねをせず、下請けにならないことをポリシーに、有用で新規性のあるマシンエレメントを開発。たとえば動作制御の核となるギア機構や周辺制御機構などです。特にノンバックラッシュ技術では世界をリードしています。
- ゼロから製品を開発するグループと、特殊品と呼ばれるお客さまのニーズに対応した製品を設計するグループがあります。モノづくりの熱い思いはどちらも同じです。

こんなタイプの人に向いている!

- 合い言葉は「Yes, I can!」—これが社内のキャッチフレーズ。オリジナリティを追求するモノづくりに情熱を注ぐことができる人。
- 仲間と協力して1つのモノをつくるのが好きな人。開発と製造現場の密な関係が完成度を高めます。
- 好奇心旺盛な人。アイデアは、意外なところに落ちていますからね。

加茂精工株式会社

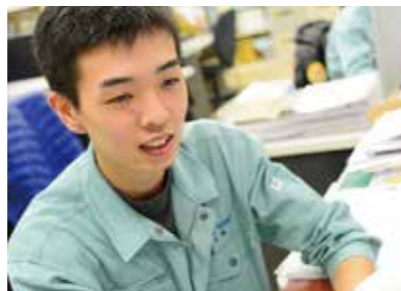
〒470-0424
愛知県豊田市御作町亀割1166

<http://www.kamo.co.jp/>

会社概要

- 設立 / 1980年10月1日
- 資本金 / 8,500万円
- 従業員数 / 71名(2016年10月現在)
- 事業内容 / ノンバックラッシュ技術で世界をリード。ボール減速機、TCGシリーズなどの他に類のない新規有用なマシンエレメントの開発・製造・販売

いくつも必要なんですね。行けるだろうとなったら試作です。自分でハンダゴテを持って作りましたよ。何度も繰り返し、ようやく量産のために協力会社さんに投げられるところまできました。まだ終わりにじゃない。コストを考えるとここの部品がいんじゃないか。入手しやすい部品はこれ。ヨーロッパに出荷することは可能か、などと、さまざまな視点から検証することが重要で、さらに改良して製品に仕上げます。すべて携われるのは、まさに望んでいた環境です。まだまだ経験が少ないのもっと多くのモノやコトにふれて、アイデアをため込んで、世界で一つのモノづくりに活かしたいですね。



社員全員に活かしている。加茂精工のモノづくりDNA。

新規開発のスタートは、「この減速機をこうしたいからやってみないか」と上司から言われることもあれば、自ら提案することもあります。雑談の中から「それ、おもしろいよ。つくってみよう」と始まることだってあるんですよ。製造現場からアイデアをもらうこともありますね。部署や職種に関係なく社員の仲がいいと言えますが、加茂精工の「新規有用なモノの創造」というDNAが全員の中に息づいているんじゃないかな、と私自身は感じます。70人ほどの会社が、世界の中で存在感を示せるのは、これがあるからだと思います。



経験とアイデアをたっぷりため込んで、いまに開発するぞ、世界唯一の製品。

PICKUP COMPANY 02

メーカー | 機械 / 精密機器
加茂精工株式会社

Profile

技術部 開発グループ
松林 佑

三重県鈴鹿市出身
工学部機械学科卒 2012年入社

できればモノづくりのすべてに携わりたい、と就活では中小企業を狙っていた。選んだのは加茂精工。理由はおもしろいことができそうだから。入社5年目、「実際、おもしろい」と、少年の顔で開発に挑んでいる。

独自の技術を持っている。
世の中になかったモノを創造している。
モノづくりを楽しみたいなら、
チャレンジさせてくれる、ハコイの会社。

ボールを使った減速機? どうやって作ってるんだ??

もともとモーターに関わるモノに興味があったため、減速機メーカーも対象に就職活動をしていました。加茂精工のホームページを見たら、ボール減速機の特許を持っている。ん? ボールを使ってどうやって作っているんだ? とがせん興味が出てきました。会社説明会に行き、「ここならおもしろいことができそうだ」と入社を決めました。最初は製造現場の研修。製品はもちろん、試験機まで自社で設計し製作しているのは中小企業ではなかなかありません。電気制御の部分も自分たちで考えますしね。この時に幅広くモノづくりに関わっていいかな、と実感しました。



「製品を世の中に送り出したい」、その責任と楽しさを実感。

現在開発中の案件は割出装置の制御部分。「割出時間を速めよう。それには制御を速くしなければならぬ。専用の制御装置が必要だ」と始まりました。たとえば10秒かかっていた時間を1秒に減らしたいとすると、Aの部分で1秒短縮、Bの部分で1秒短縮、と切り詰めていきます。アイデアは

わが社のイチオシ製品

加茂精工の飛躍の礎となったのが「ボール減速機」です。1986年、歯車を使用する減速機が主流だった時代に、世界で初めてボールを使った減速機の実用化に成功。バックラッシュ(ガタツキ)を解消し、しかも軽快に動力伝達ができる画期的な製品です。液晶の搬送など精度が求められる箇所、静音性が重要な医療機器などに広く利用されています。世界12カ国で特許を取得した当社オリジナル技術。現在はさまざまなタイプがあり、いまも主力製品グループです。2016年6月にNHK総合「超絶凄ワザ! S.P.」に出演し、「究極の歯車対決! 小型モーターで冷蔵庫を持ち上げる」というテーマのもと対戦。弊社は、ボール減速機を応用した技術で挑み見事に70キロの冷蔵庫を持ち上げる事に成功しました!

ボール減速機は、世界12カ国で特許を取得。

